

令和6年度「人権教育研究指定校事業」指定校事業報告書

委託先（ 北海道 ）

1. 調査研究のテーマ、概要

調査研究のテーマ	「生涯にわたって学び よりよい社会をつくるために」 ～子どもにやさしい学校づくり～
----------	--

○調査研究のテーマを設定した目的

安平町は、2021年12月に、日本で初めて「ユニセフ日本型子どもにやさしいまちモデル」実践自治体として承認され、子どもの権利条約に基づく取組である「子どもにやさしいまちづくり事業（CFCI）」を町全体で実践している。

本校は、2018年9月に発生した北海道胆振東部地震で甚大な被害を受けた早来地区にあり、震災後の復興の象徴として2023年4月に開校を迎えた。町内初の義務教育学校の開校に当たっては、大人たちだけでなく、児童生徒とともに意見を出し合い、「みんなが学べる場所づくり」を目指してきた。

調査研究のテーマである「生涯にわたって学び よりよい社会をつくるために」～子どもにやさしい学校づくり～を設定した目的は、「子どもから大人まで、自分の人生を豊かに生きるために挑戦する人を応援し、挑戦が次々と生まれる文化を作ること、よりよい町を目指す」という安平町「あびら教育プラン」の具現化に向け、安平町教育委員会との連携・協働の下、本校の児童生徒が人権意識を培うための学校教育の在り方について実践的な研究を行うためである。

また、これからの学校には、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手を育成することが求められており、多様な文化に触れたり、多様な人々と協働したりしながら、生涯にわたって学び続けることができるよう実践的な研究を行うことが必要であると考えます。

本研究調査をとおして、子どもを主体とした学校運営及び子どもの社会参画を保障する活動機会の充実を図りたい。

○調査研究の概要

- ア 安平町教育委員会との連携・協働による「子どもにやさしい学校づくり」の推進
- イ 人権教育に関する指導方法等の改善及び充実
 - (ア) 人権が尊重される学習活動づくり、人間関係づくり、環境づくりの実践
 - (イ) 授業研究を通して、体験活動を取り入れた指導方法の工夫・改善
- ウ 関係協力機関との連携、協力

2. 基本情報

研究指定校の概要

○学校名

安平町立早来学園

○これまでの研究指定等の状況

なし

○学級数

前期課程：14学級（うち特別支援学級：7学級）

後期課程：6学級（うち特別支援学級：2学級）

○児童生徒数

前期課程児童数：199人

後期課程生徒数：109人

全校児童生徒数：308人（令和6年5月1日現在）

○URL

<https://www.town.abira.lg.jp/kosodate/gakuen>

○指定理由

本校は、小学校3校、中学校1校が統合して生まれた。開校前に教職員に実施したアンケートでは、「素直でやさしく礼儀正しい」、「しっかりと話を聞き、授業に意欲的に取り組む」といった肯定的な長が挙げられた一方で、「人間関係の固定化」、「自主性・積極性の弱さ」などの課題も挙げられた。

そのような中、安平町が進める「子どもにやさしい町づくり」との連携から、校則やきまり等の策定にあたり、「子どもが意見できる」場を保障し、社会への参画意識を高めるなど、目に見える形で子どもたちが主体的に活動する場面を設け、「学習とは参加である」ことを体感させる教育活動に取り組んできた。

本調査研究を推進することにより、「自らの力をより高く伸ばそうとする向上心を持ち、その力を進んで地域や社会のために役立てようとする態度」や「人の気持ちや立場を深く考えながら、公正な判断に基づいて行動できる態度」の育成などについて、発達の段階に応じて9年間を見通した人権教育の充実が図られ、子どもにやさしい学校づくりを推進できると考え指定した。

3. 取り組んだ人権課題について

取り組んだ人権課題（該当するものに○印。複数選択可。うち、最も主要な人権課題1つに◎をつけること。）※人権教育研究推進事業公募要領（別紙）「2. 事業の内容」を必ず確認すること。

①子供	○
②女性	
③高齢者	○
④障害者	
⑤同和問題	
⑥アイヌの人々	◎
⑦外国人	
⑧-1 HIV感染者等	
⑧-2 <u>ハンセン病患者等</u>	
⑨刑を終えて出所した人	
⑩犯罪被害者等	
⑪インターネットによる人権侵害	
⑫北朝鮮当局による拉致問題等	
⑬性的指向、性自認	
⑭その他（ ）	

4. 調査研究の内容等

○調査研究の内容

本調査研究を通じて、生涯にわたって学び、よりよい社会をつくるために、9年間を通して、「ふるさとを大切にし 自ら世界を広げる子」「友だちと夢を語り 未来に向かって挑戦する子」「思いやりをもち 互いの良さを認め合う子」の育成を目指す。

ア 安平町教育委員会との連携・協働による「子どもにやさしい学校づくり」の推進

・CFCIと関連付けた教育活動の実施

イ 人権教育に関する指導方法等の改善及び充実

(ア)人権が尊重される学習活動づくり、人間関係づくり、環境づくりの実践

・各教科等における人権に関する単元題材での指導

・総合的な学習の時間における探究活動との関連を図った学習

(イ) 授業研究を通して、体験活動を取り入れた指導方法の工夫・改善

・主体的・対話的で深い学びの実現に向けて作成した「安平町ハンドブック」に基づく、1人1台端末の効果的な活用による授業改善

・多様な他者や多様な文化に触れ、子どもたちが主体的に参画する体験活動

ウ 関係協力機関との連携、協力

・安平町、ユニセフ、ウポポイ等との連携・協力を図った各種活動

エ 道教委との連携

・報告会や授業参観などにおける指導助言

・体験活動の充実に資する支援（講師の派遣など）

・その他、事業全体に係る支援及び指導助言

○実施方法

ア 人権課題「子供」について（授業）

・後期課程第9学年を対象として総合的な学習の時間において、子どもの権利条約についての理解及び権利を大切にする態度を育み、集団の中で互いの意見を大切にする意識を高めることをねらいとした授業実践を行った。

・課題設定の場面では、教育委員会と連携し、役場職員をゲストティーチャーとして、子どもの権利条約やCFCI（子どもにやさしいまちづくり事業）について学び、町の課題について考えた。（4時間）

・情報の収集及び整理分析の場面では、すべての人の意見表明権を尊重するためにはどんなことが大切かを考え、自分たちにできるプロジェクト活動を検討した。（10時間）

・まとめ・表現の場面では、ファシリテーションについて探究し、地域の大人や教職員を対象としたワークショップを開催した。（8時間）

イ 人権課題「高齢者」について

- ・後期課程第9学年を対象として総合的な学習の時間において、地域の高齢者との交流を通して共に生きていくために必要なことや、住みよい町やコミュニティについて考える意識を高めることをねらいとした授業実践を行った。
- ・課題設定の場面では、教育委員会と連携し、学校コンシェルジュをゲストティーチャーとして、町のコミュニティデザインや地域課題について考えた。(4時間)
- ・情報の収集及び整理分析の場面では、学校施設を活用することによって、地域コミュニティの形成にどのように役立てられるかを考えた。(10時間)
- ・まとめ・表現の場面では、学校施設を活用して高齢者をターゲットにした交流イベントを開催した。(8時間)

ウ 人権課題「アイヌの人々」について

- ・前期課程第4学年を対象として総合的な学習の時間において、博物館の施設見学を通して、アイヌの人々や文化に対する興味・関心を持ち、多様な文化が共生する社会について自分の考えをもつことをねらいとした授業実践を行った。
- ・課題設定の場面では、アイヌ文化の基礎知識について学び、見学学習での調査テーマを設定した。(2時間)
- ・情報の収集及び整理分析の場面では、ウポポイ(民族共生象徴空間)での伝承芸能の鑑賞、国立アイヌ民族博物館での施設見学や展示資料の調査を行った。(6時間)
- ・まとめ・表現の場面では、1人1台端末を活用し、グループで協働してアイヌ文化についてのレポートを作成した。(4時間)

エ 人権課題「子供」について(研修)

- ・学校教職員および自治体職員を対象として、NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパンより講師を招き、子どもの権利についての理解を深めることや子どもの意見聴取の重要性について理解を深めること、ファシリテーションスキルの習得と理解を目的とした研修会を開催した。
- ・日常的に子どもに関わる大人を対象にあびらCFCI研修会を開催した。(4時間)

○検証・評価・改善・普及

ア 人権課題「子供」について(授業)

- ・研究推進に当たり、教育委員会のCFCI事業担当職員と連携し、子どもの権利のなかでも特に意見表明権に焦点をあて、単なる啓発活動にはならないように「意見表明権が大切にされる場づくり」をテーマにファシリテーションの在り方や方法について探究し、その実践を地域住民や教職員と共有する実践活動を行った。
- ・事前及び事後アンケートから、「子どもの権利があるということを知っている」と回答した生徒の割合が100%(75ポイント上昇)、「子どもの権利を大切にするためには何が必要か考えたことがある」と回答した生徒の割合が100%(100ポイント上昇)、「相手と対立したとき、互いの立場を尊重しながら解決に向けた対話ができる」

と回答した生徒の割合が 100% (75 ポイント上昇) になった。

イ 人権課題「高齢者」について

- ・研究推進に当たり、早来学園の特色でもある公民館機能を備えた学校として地域開放されている施設を有効に活用してできることを考え、地域の高齢者の課題やニーズを直接把握するために地域の高齢者にヒアリング活動を行って企画を検討した。
- ・学校施設を活用することで、どのように地域コミュニティを形成できるかを検討し、社会福祉協議会や福祉施設の協力を得てイベントを開催した。
- ・事前及び事後アンケートから、「地域に住んでいる高齢者の抱えている課題について知っている」と回答した生徒の割合が 100% (40 ポイント上昇)、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがある」と回答した生徒の割合が 90% (70 ポイント上昇)、「地域や社会をよくするための行動を協力しながら実行できる」と回答した生徒の割合が 90% (40 ポイント上昇) になった。

ウ 人権課題「アイヌの人々」について

- ・研究推進に当たり、教育委員会の学校魅力化コーディネーターと連携し、児童の興味・関心を高めるカリキュラム全体の工夫を協働で考案した。
- ・国立アイヌ民族博物館の見学学習では、各自が自分なりの調査テーマを設定し、テーマに沿ったクイズシートを活用しながら施設や展示資料を見学するなど、発達の段階に応じた学びを深められるように工夫した。
- ・事前及び事後アンケートから、「アイヌの人々が大切にしてきた生活や考え方を知っている」と回答する児童の割合が 91.6% (54.6 ポイント上昇)、「アイヌの人々が大切にしてきた生活や考え方に関心がある」と回答する児童の割合が 91.6% (13.9 ポイント上昇)、「自分とはちがった考え方も理解しようと努力できる」と回答する児童の割合が 100% (11.2 ポイント上昇) になった。

エ 人権課題「子供」について (研修)

- ・夏季休業期間の令和 6 年 8 月 5 日、早来学園の施設においてあびら C F C I 研修会を開催し、町内学校職員を中心に自治体職員を含む 54 名が研修に参加した。
- ・誰もが安心できる場づくりに必要な考え方、傾聴力や質問力のポイント、話合いのステップについて理解を深めるため、ファシリテーションについての理解を深めるとともに、ファシリテーターに求められるスキルについて確認した。

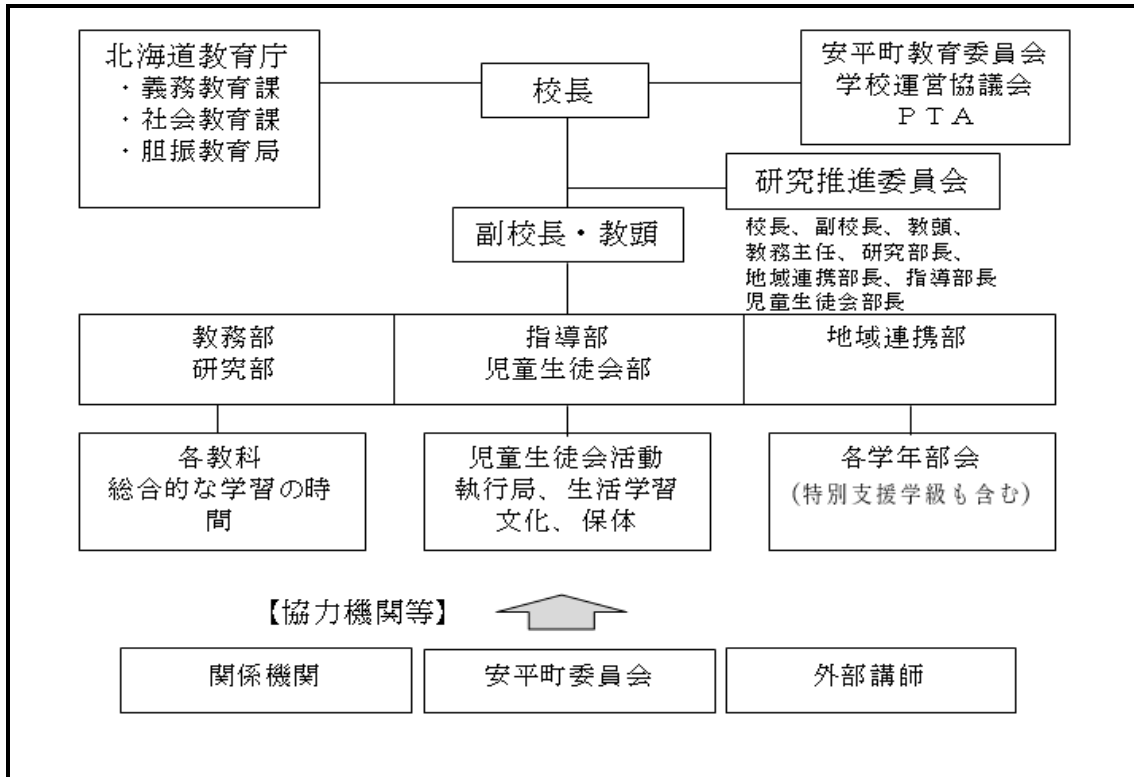
オ 成果の普及等について

- ・取組の成果を町としての C F C I の取組に反映し、町のホームページに掲載し普及した。今後も、町の重要政策として C F C I の取組を充実させる。

5. 人権教育にかかる年間計画

時 期	対 象	内 容	備 考
5月	1・2年	動物とのふれあい学習（放流体験）	地域連携
5月	全学年	Q-U検査	
6月	全学年	いじめ調査アンケート① 教育相談	
6月	3年	地域の働く人学習	地域連携
7月	9年	まちづくり学習(CFCI、高齢者、障害者)	地域連携
9月	全学年	多様な文化に触れる芸術鑑賞	音楽演劇鑑賞
9月	全学年	スクールフェスティバル	
10月	4年	ウポポイ見学（地域の歴史）	校外学習
10月	全学年	いじめ調査アンケート② 教育相談	
11月	全学年	いじめ調査アンケート③ 教育相談	
12月	7～9年	薬物乱用防止教室	外部講師
12月	4年	人権教室	
12月	7～9年	人権・生き方講演会	外部講師
12月	全学年	いじめ防止全校集会	
1月	4年	認知症サポーター養成講座	外部講師
2月	4年	高齢者施設との交流	地域連携
3月	9年	性教育講演会	外部講師

6. 推進体制（都道府県・指定都市教育委員会を含む）



○関連資料



総合的な学習の時間 指導案

学校名 安平町立早来学園
対 象 第4学年

1 単元名 「ウボボイ見学を通じたアイヌ文化の学習」

2 単元の目標

- ・アイヌ文化の事前学習やウボボイの見学を通して、アイヌ文化に対する興味関心を高める。
- ・学びから得た情報を整理し、わかりやすくまとめて表現する力を養う。

3 単元の評価規準

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・アイヌの人々の生活文化について理解している。 ・資料や見学など、目的に応じた情報収集の仕方を考え、得た情報の比較・分類の方法を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイヌ文化について自分なりのテーマを設定し、見通しを持って追究している。 ・収集した多様な情報を分類・整理し、アイヌ文化について発信する相手、内容、方法について考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイヌ文化に関心をもち、わかりやすく発信できる方法を、自分なりに考えている。 ・まとめる方法について、他者の考えを受け入れ尊重しながら、協働して考えている。

4 単元計画（12時間）

時数	主な学習活動 ○：本時の目標 ・：学習活動	知 思 主			活用する 学びの環境	目指す 学びの姿
		見取りの手段				
1 ～ 2	<ul style="list-style-type: none"> ○ウボボイで調査したいアイヌ文化のテーマを設定する。(課題の設定) ・ゲストティーチャーの話を聞いてアイヌ文化の概要を知る。 ・自分のウボボイ調査テーマをワークシートの中から選んで決定する。 	発言・態度 テーマ設定のワークシート	○		学校魅力化コーディネート(ゲストティーチャー) iPad	
3 ～ 8	<ul style="list-style-type: none"> ○ウボボイ見学を通して、アイヌ文化の情報を収集する。(情報の収集) ・伝統芸能上演を鑑賞する。 ・国立アイヌ民族博物館の展示を自分の調査テーマを中心に見学してクイズシートに回答する。 	見学学習の様子 メモ クイズシート	○		民族共生象徴空間ウボボイ	
9	<ul style="list-style-type: none"> ○事前学習やウボボイ見学を通してわかったことなどの情報を整理する。(整理・分析) ・グループごとにそれぞれの調べた情報を出し合って、まとめる内容を決める。 	協働の様子 メモ		○	iPad 移動式ホワイトボード	
10 ～ 12	<ul style="list-style-type: none"> ○アイヌ文化についてICTを用いてまとめレポートを作成する。(まとめ・表現) ・Canvaのフォーマットを用いて、グループで協働しながらまとめを作成する。 ・他のグループのレポートも見て、互いの内容についてアドバイスや考えを述べ合う。 	メモ、発表資料 協働の様子		○	iPad	

